

令和4年度（2022年度）自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教 育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像 は定められているか	3	本校と本校の属する学校法人は、学校運営にあたり、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、それを遂行するために、「3つの教育理念」と「4つの信頼」を基に、事業計画を作成しているからこそ、健全なものとなっている。 また、理念・経営者の言葉等々を文書化し、組織内への浸透、新入職者へのわかり易い提示により、活性化に繋がっている 理念は変わらないが、目的や育成人材像は業界から遊離したものであってはならない。常に業界と共にあるという姿勢を怠らないことである。	「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。	3・2・1	・UCCカップの継続、UCCハワイ農園のコーヒー農園オンライン研修を実施。 ・創立以来グループが掲げておられる「3つの教育理念」と「4つの信頼」に基づき 確実に運営されている。特に「実学教育」は現代ニーズ、社会の変化に応じて、的確に教育されており、高く評価したい。 「職業人教育を通じて、社会に貢献する」というミッションを基に育成するべき人材像を明確に示し特色ある教育活動に取り組んでいることを高く評価します。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか			「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか			「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか			グループ校で構成する食文化教育部会を開催し、常に新しい情報共有を図ることができる。 昨年1年間はグループ校での情報共有やオンラインでの合同授業などを実施することができた。それは人材育成に対する理念が共有できているからである。		
2 学 校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	学校法人コミュニケーションアートが計画する5ヶ年計画をうけ、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。 諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。 事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決済を受け、承認を得ることになっている。 それを受け、各学校では毎年12月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための会議・研修も行っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等についてが明確に示されている。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	3・2・1	特になし ・具体的に各年度事業計画を作成し、常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。 学校運営にあたり、5ヶねん計画を常に改善しながら長期・中期・短期計画により、組織的な運営に努めていることを高く評価します。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか					
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					

3 教 育 活 動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	2	職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。 ただ、コロナウィルス感染症により食の業界の変化が早く、この大きな変化に対応する必要がある。	本校では、技術・知識以外にも 創造力、コーディネート力、マネジメント力 上記、5つの力をバランス良く身につけ、就職後の即戦力を目指す独自の教育プログラムがある。	3・2・1	・社会に出た時に即戦力になる人材育成プログラムとして評価できます。 ・トライ＆エラーが良い経験になる。 ・本学は教育指導要綱に基づき、社会的、職業的自立を目指し、独自の「産学共同教育システム」がいち早く実践され、完成度はかなり高い。 ・また業界のトップクラスを揃えた講師陣は魅力的である。 これからは世の中の大きな変化に適応すべく、より積極的な教育活動が期待されている 時代のニーズに応じて、教育内容やシステムの見直しを続けていること、またさらに「キャリア教育」の視点も盛り込み、改善につなげようとしていて、期待します。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけてい					
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					
4 学 習 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	2	教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、就職希望者全員就職・退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。 開校以来、就職希望者全員の就職を達成しているが、就職後の離職率低下及び「食」にとらわれない幅広い分野・業界・職種・企業への就職も新たな課題として取り組んでいる。 退学率については、学生一人ひとりへの徹底したフォロー、カリキュラムの改善改革、SSCとの連携強化、定期的なスタッフ勉強会を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。	教育成果の1つである就職は、年々専門就職率も向上し、就職希望者100%も早めに達成することができた。ただ、就職活動を行う以前に、学校生活での出席率や単位取得率の不足により、就職対象者となれない問題は、非常に大きな課題である。今年度から留学生も含め対象率90%を目標とし、一人ひとりの夢実現・成功へ向けてサポートを続ける。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。新たにオンラインでの就職保護者会を開催し、保護者にも最新の業界動向・就活状況をダイレクトに伝えた。 退学率では、個別カウンセリングの体制をより強化し、1人でも退学者を出さない学校になるべく注力している。今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。	3・2・1	・68名希望→全員就職決定は評価できる。 ・退学率0%は継続課題がある。 ・お話を伺い、出席率や退学率をより良いものにするための取り組みがとてもしっかりしていて、学生も安心できるのではないかなと思いました。 ・本校は退学率は0%、また、今年度から留学生を含め専門就職率100%をめざし、マンモス校ではできない、きめの細かい学習指導が実施されています。さらに学校、学生、保護者と三位一体の支援する体制作りを行っている。 ・いかなる事も「100%」というのは難しく様々な理由があり達成できないことも致し方ないこともあるかと思います。 先生方のお話を聞いているといつも「学生達のために」という気持ちが伝わってきます。 学生も多様化する中で個に応じた指導、支援を行い成果として表われていると思います。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか					
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか					

5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2				3・2・1	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか						
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか						
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか						
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか						
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか						
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか						
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか						
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか						
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか						
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						

・現在日本では7人の内1人が貧困学生であると言われている。今後、魅力ある学生を獲得するためには、独自の奨学金制度を整備し、優秀な人材確保に努力して頂きたい。また、同じく、将来増加するであろう東南アジアからの留学生に対する対応も必要であろう。

・卒業生に対してのコンテンツも楽しみにしています。
・実にきめ細かい学生支援を行っていると感じています。
学生へのアプローチなどお柔軟に工夫を重ねていると思います。

6 教 育 環 境	6-31 施設・設備は、教育上の 必要性に十分対応できる よう整備されているか	2	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境（施設・設備、機材等）の整備は重要であるが、完備されていると考える。	て、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界標準の最新・最良のものを整備している。 また、業界団体が実施しているプロのコンテスト使用機種を揃え、更なるレベルアップを図っている。	3・2・1	・施設、設備、機材の老朽化への対応もされている。（日進月歩） ・講師会からの情報も集めている。 ・業界の展示会からの情報も集めている。 ・学生時代に展示会に行くことが出来るのはとても刺激になり良いと思います。 もちろん興味の無い学生もいると思いますが、この業界にいる限りこの時に見たものが役立つことも多いと思います。 ・本校はけて十分な広いスペースとは言えないものの、富田林に農園を開設、業界標準の施設、設備、機材等は整備されています。 ただこれからも、進化する厨房器具等の整備は必要であると思われます。 マンモス校とは違い一対一対のマンツーマン形式のきめ細かい家庭的なよい雰囲気が評価できる ・世の中の状況もあり、致し方ないこともあると理解しております。 ・教育環境の整備は常に課題がつきものだと思います。多面的な視点が必要だと思いますので改善に努めてください
	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか					
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか					
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか					
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3	本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（AO 入学等も）を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページ・SNSを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、公平性を保つために「入学選考判定会議」にて、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	学生募集については、早期の募集開始時期にも対応し、募集内容等々ルールを遵守し、また過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校特色でもあり他校が実施できない現場のプロが指導する技術・食材作り・マネジメント・テクノロジーまで学べる」点を強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。	3・2・1	・少しもったいないなと思うことが、「キャリアナリー」という学校名が業界内外でもすぐに伝わるようになったタイミングでの学校名変更だったので、また名前が浸透するのに時間がかかりそうだなと思いました。 ・本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、体験入学や説明会を複数買い実施し、充分理解し、疑問を解消したうえで出願してもらう、丁寧な方法を実施されている。ただ今後、日本の少子高齢化に対して、シニア層への取り組み、海外留学生等、将来、多面的な取り組みが必要であると思われます。 ・高校との連携を密にし、本人のイメージと合致した入学になるように、さらに努力を重ねて下さい。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか					
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか					
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					

8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算（収支計画）は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。 ②①のための体制作り①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。事業計画・予算は学校責任者を中心に作成し、理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。	③・2・1	・5ヶ年の収支予算に基づき予算及び計画が適正に執行管理されています。 今後、財務の安定化の基本、学生募集が一番重要な課題となってくるとわれます。 ・物価が高騰するなど様々な社会情勢の中で頑張っていると思います。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか					
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか					
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか					

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営（学科運営）が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 （A）組織体制 ①財務情報公開体制（学校法人） ②個人情報管理体制（滋慶学園グループ） ③図倫理委員会（滋慶学園グループ） ④図路変更委員会（滋慶学園グループ） ⑤図務人事委員会（滋慶学園グループ） ⑥図校関係者評価委員会（第三者） ⑥教育過程編成委員会（第三者） （B）システム（管理システム） ①個人情報管理システム（滋慶学園グループ） ②建物安全管理システム（滋慶学園グループ） ③防災管理士システム（滋慶学園グループ） ④部品購入棚卸システム（滋慶学園グループ） ⑤コンピュータ管理システム（COM グループ） 滋慶学園グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校（学科）運営ができています。	すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。	3 ・ 2 ・ 1	・コンプライアンスが重視されてから長年が経過していますが、世間ではセクハラ、パワハラ、金銭問題等の不祥事が後を絶たず、毎日報道されています。 組織体制教科やシステム構築に努められ、グループ全体での情報の共有化も必要である。今、世の中ではLGBTQをはじめ、DEI（多様性、公平さ、インクルージョン（包摂））が求められている。そのためにも第三者委員会の設置も必要であると思われます。 ・組織体制がしっかり組まれていることを、高く評価します。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか					
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか					
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか					
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	本校には、「3つの教育理念」（「実学教育」「人間教育」「国際教育」）を実践し、「4つの信頼」（①学生と保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼）を得られるように学校運営をしている。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。 また、社会福祉に関するバザーなどへ出店することや、子供食堂へのパンの提供など、地域貢献に積極的に参加している。 産学連携による企業プロジェクトや販売イベントにおいては、SDGsへの取り組みを行っている。廃棄フルーツを使った商品開発、食品ロス、ごみ量の低減を目標に掲げたOne Day Shopを実施、今後は当たり前の課題として、意識づけを行って行きたい。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。 一例として、社会福祉法人日本ライトハウスのバザー出店などは長年行っている。 また、定期的な販売イベントを校舎内で行うことで、地域社会と交流を図り、ひいては地域貢献に繋がる活動となっている。 そういった活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。 新しく菜園を設置したことにより、食育活動など、新しい地域交流の機会を設けたい。 授業運営においても、教職員がSDGsの意識を持ち、目標を掲げて取り組む考えである。	3 ・ 2 ・ 1	・継続していただきたい（特にSDG'Sの取り組み） ・SDG'Sへの取り組みで、ただロスを少なくただ廃棄するものを使う。 というだけでなく商品開発をする上で大切などのように利益を生み出すかを考えれると更に学びに繋がるのではないかなと思います。 ・「3つの教育理念」と「4つの信頼」の着実な実践の積み重ねで社会貢献、地域貢献が確実に浸透しつつある。 ・近隣への配慮、イベントのアプローチ、交流（地域）に深く賛同いたします。 ・学校の社会貢献に対する姿勢から学生たちは大切なことを学んでいると思います。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					